

「武蔵野美術大学建築学科竹山実賞」審査選評

[審査総評] 竹山 実 審査委員長

第9回竹山実建築賞を選び終えて

今回の受賞作は以下の2作品に決定しました。

「笠間の菊まつりプロジェクト」(小倉康正君:1985年卒業)

「足羽川沿いの家」(清水隆之君:2001年修了)

笠間の菊まつりプロジェクトは、小倉康正君が代表をつとめる学生や卒業生のチームが制作したもので、2010年以来3年間の成果をコンパクトにまとめたものです。その内容は、茨城県にある笠間稲荷神社の周辺で毎年秋の菊の季節に開かれる菊まつりの時期に、環境的な仕掛けづくりをして「まつり」に参加した記録です。主に布や木などでつくられたもので約1ヶ月間という限られた期間とはいえ、それが与えるインパクトは可成り広がりと深さをもっていたのでしょう。たとえば、2010年につくられた「キクぼけっと」は門前通りに提案されたものですが、なによりもこのデザインの素朴さがいい。そこを行き来する市民の姿にその喜びが現れています。ここでは環境づくりに参加した行為が、得難い意味をもっているようです。

もう一つはエレガントな住宅です。一見してごく地味にデザインされているようですが、見れば見るほどその配慮が細部にまでゆき届いているのが判ります。まず、福井市の市街地を流れる足羽川(アスワガワ)沿いにあるこの敷地ははなはだ多様性にとんでいます。福井市の景観形成区域であるとともに、名所になつて川沿いのサクラの並木も望まれる一方で、東側には威圧的なマンションや電車通りがネガティブな要因をもたらします。作者はこの敷地の多様性に見事に対応しているようです。川沿いの立面は3層の縦格子によって特徴づけられていますが、断面図がその作用性を明快に説明しています。木材を多用したこのエレガントな住宅作品には、作者の並々なぬ努力が隠されていて、それを読み解くのはこちらの努力次第です。

棚橋玄君の「RECORD OF A LIVING BEING」について一言。意図は鮮明で大変面白い試みだと思えます。しかしなかなか実際の空間で想像することが出来ません。あるいは、この作品そのものよりは、実はこの作者のこれからへの期待が大きすぎるのかも知れません。(以上)